

# 就学前教育連携通信

令和3年6月4日  
中野区教育委員会指導室  
就学前教育推進担当  
電話 03(3228)8738

令和3年度がスタートしました。中野区教育委員会指導室 就学前教育推進担当は、子どもの発達の連続性を踏まえ、幼稚園・認定こども園・保育園と小学校や中学校との連携の取組を推進しています。今年度も就学前教育連携通信を発行し、就学前教育・保育施設や小学校・中学校の円滑な接続に関する取組の様子をお届けします。

## 新しい保幼小中連携教育の必要性

- 子どもたちが健全な生活習慣をはじめ、学習習慣や思考力・判断力・表現力といった「生きる力」を身に付け、すこやかに成長するためには、幼児期から小・中学校までの15年間の発達・成長を見据えた教育が必要です。そのためには、就学前教育・保育施設、小学校、中学校が相互に教育内容を理解し、指導方法を共有するなど、次の学校段階を踏まえ、15年間の学びの連続性を見通した教育の充実が求められます。
- これまで中野区は、「保幼小連携教育」「小中連携教育」にそれぞれ取り組んできましたが、現在の複雑な社会情勢や前述の北区における子どもたちを取り巻く課題を解決していくためには、「保幼小連携教育」及び「小中連携教育」を各々発展させるとともに、一体的に展開する「保幼小中連携教育」が、その解決の重要な手だてとなります。

## 保幼小中連携教育の目的

- 全ての子どもたちの就学・進学に伴う不安の解消を図り、子どもたちが安心して学び、一人ひとりの個性を生かしながら成長できることを目指します。
- 15年間の学びの連続性を踏まえたカリキュラムの連携により、子どもたち一人ひとりが確実に「生きる力」を身に付けることを目指します。

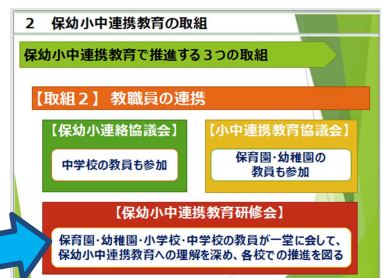
## 保幼小中連携教育での目指す姿

	幼 児	児 童	生 徒
自己肯定感・自己有用感の育み	○自分が温かく見守られ大切にされていると感じたり、友達のよさや思いに気付いたりしています。	○友達との関わりの中で自分自身のよさや成長を感じたり、思いやりや優しさをもって友達に接したりしています。	○中学生になった自覚や誇りをもち、自己肯定感や自己有用感が高まっています。
生きる力の育成	○幼児は、遊びや集団生活の中での豊かな体験を通じて、気付きや工夫、友達と関わることの楽しさを感じています。	○幼児期に培われた学びに向かう力を基盤としながら、子どもたちがいきいきと学び、「分かる」「できる」「学び合う」喜びを実感しています。	○小学校で身に付けた力を発揮しながら、子どもたちはより広く深く学び、自分の学び方を確立しています。
進学に向けての期待	○小学校進学への安心感や、小学校へ期待する気持ちをもってしています。	○中学校進学への安心感や、中学校への憧れの気持ちをもってしています。	○卒業後の進路に夢を抱き、自らの力で切り拓こうとする意欲をもってしています。

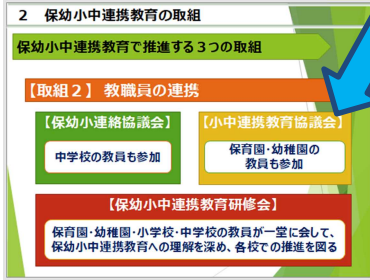
## <第1回 保幼小中連携教育研修会 5月10日>

中野区の重点施策である保幼小中連携教育への理解を深めるとともに、その取組の充実に向けての課題解決及び学校における組織的対応を推進していく力を身に付けるため、「保幼小中連携教育研修会」が実施されました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインによる開催となり、区立幼稚園と区立保育園は配信会場へ集合しての参加となりました。初めに保幼小中連携担当の鎌形指導主事より、中野区の保幼小中連携教育についての講話があり、続いて第二中学校区と（旧）第四

中学校区の「連携教育の取組」について各中学校から報告がありました。今後も、中野区の新しい保幼小中連携教育の意義を考え、これからの連携教育を充実させるために、できる取組について情報の共有を進めます。



## <第1回 小中連携教育協議会 5月19日>



平成25年度より、小・中学校の教員が年2回集まり、各中学校区内で共通の課題を話し合ったり、テーマに基づいた協議を行ったり、授業を見合ったりすることを通して、9年間を通した指導の充実を図っています。

今年度から就学前教育・保育施設にも参加を呼びかけ、それぞれの中学校区が主体となって、保幼小中の連携教育をより深めていきます。

第2回は12月に行われる予定です。



第七中学校を取材させていただきました。今回は授業公開をGoogleMeetで開催し、参加者は別室で視聴しました。

全体会は校長室から各教室へ配信が行われました。池田校長先生は、この日参加した江古田小学校と江原小学校との関わりを深める重要性に触れ、「小学校で身に付けた力を中学校で発揮できるように期待している。」と話されました。また、生活指導主任千葉先生からは、七中研究指定校についての概要説明がありました。

分科会では、「ICT教育」について工夫していることやアイデア、今後やろうとしていることなどの情報交換が行われました。また、「9年間の学びの連続性」を構築するための課題を焦点化し、共通理解を図りました。

## <令和3年度 合同研究 教育・保育部会と運動部会 スタート！>

### 「合同」って何が合同なの？

中野区内では、就学前教育・保育施設等が約150施設運営されています。これらの施設の保育者であれば、幼稚園でも保育施設でも、公立・私立も関係なく、誰でもこの研究会に参加することができ、毎年のテーマをもとに合同に研究を進めます。これにより、参加者は自分の置かれた環境の中だけでは気付くことができなかつた保育の工夫を知り、子どもたちへの関わりを振り返り、研鑽します。合同研究の取組は今年で15年目を迎え、近隣区にはない中野区独自の貴重な学びの機会として、就学前教育・保育の質の向上につながっています。

### <教育・保育部会>

「0歳児から5歳児まで貫いた就学前教育において育みたい子どもたちの資質・能力(3本の柱)について着目した取組」  
～新しい生活の中のコミュニケーション～

保育の営みは主体性をもった「子ども」と「保育者」双方があって初めて生まれる営みであることに立ち返ろう

新型コロナウイルス感染対策の中の保育は過酷ですが、だからこそ新たな気づきもあります。「子どもの素晴らしさ」「子どものすごさ」「子どもの愛おしさ」など、心温まるエピソードに保育者は支えられて、今日に至っているのではないのでしょうか。また、保育者として過酷さ、つらさ、もどかしさなどのネガティブな心情をごまかさず素直に認めたいので、自分の保育と向き合ったときに、新しい世界に出会えるのではないのでしょうか。

これからの研究の中で「マスク保育」を考え、子どもの育ちや自身の感じたことなどを具体的に思い出し、エピソード記録を作成します。

⇒ 今後は、そのエピソード記録が、どうして保育者としての自分の心に留まったのか、丁寧に考察していきます。

### <運動遊び部会>

「就学までに経験したい運動遊びの取組」  
～ボール遊び・鬼遊びを中心に～

就学前の運動遊びは、体を動かすことが好きな子どもを育てることを基本としています。そのことを踏まえ、新しい生活様式の中で実現可能な運動遊びに着目し、「身近な遊具を利用した遊び(ボール遊び)」や「多様な動きが経験できる遊び(鬼遊び)」を中心に研究を行います。

#### ボール遊びと鬼遊びの関係は？

小学校体育科の内容と目標の中で、低学年の「ボール運動系」は競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動遊びです。

「ボールゲーム」と「鬼遊び」は、基本的なボール動作とボールを持たないときの動きを身に付けたり、規則の工夫や攻め方を選ぶ経験をします。また、考えたことを友達に伝えたり、勝敗を受け入れたり、安全に気を付けるといった経験にもつながります。このように、2つの遊びの関係は深いことがわかります。

⇒ 今後は、「鬼遊び」「ボール遊び」を実際に体験したり、各園の実践事例を共有しながら、研究を進めていきます。



今年度第1回の研究は同日に行い、両講師から講義を受けました。保育者が子どもと関わり、教育・保育を進めるうえで大切にしなければならない着眼点はどちらの部会も同じであることを確認しました。